

1. 題材名 「カントリーロードに重ねる副旋律を創作しよう！」

2. 題材の目標

- (1) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつとともに、創作表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 音の重なり方の特徴を生かした旋律づくりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 指導事項との関連

第2学年及び第3学年 「A 表現」 (3) 創作

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること

イ(1) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の工夫

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること

〔共通事項〕(1)ア(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころになる音楽を形づくっている要素：「テクスチャ」)

4. 題材設定の理由

本題材は、既存の歌唱曲に対して副旋律を創作する活動をとおして、「自分のカントリーロード」を思い浮かべ、表したいイメージと関わらせながら、音の重なり方を理解するとともに、それらを生かしたまとまりのある創作表現を創意工夫して音楽をつくることをねらいとしている。本題材では、音楽を形づくっている要素のうち、「テクスチャ」を思考・判断のよりどころとし、「旋律」を、表したいイメージに合わせて創意工夫の手がかりとする。1 学期にはボディーパーカッションのための2声のリズムアンサンブル曲の創作活動に取り組んでおり、既習の知識・技能を旋律の創作へと発展させる学習展開として位置づけた。つくっている音楽を表したいイメージに近づけていく過程で、他者と互いの発想や見通しを伝えあったり、響きを確認めあったりする活動を取り入れることで、自分の表現を客観的に捉え、よりよいものに高めていこうとする姿勢の育成につながる。教材には、多くの生徒にとって親しみのある「カントリーロード」を用い、主旋律の特徴を理解しやすく、副旋律創作への見通しをもてるようにした。旋律の重なりによって生まれる特質や雰囲気の変化を味わいながら、創作を通して自分らしく音楽を表現する力を育みたい。

5. 教材について

(1) 主教材

「カントリーロード」 B.ダノフ・T.ニヴァート・J.デンヴァー 作詞・作曲

(2) 補助教材

「翼をください」 山上路夫 作詞 / 村井邦彦 作曲

(3) 教材選択の理由

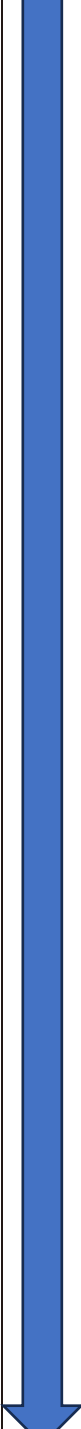
「カントリーロード」は、親しみやすい旋律と情景を想起させる歌詞をもつ楽曲であり、旋律の流れが自然で、音域も中学生にとって歌いやすく、リズムも規則性がある。そのため歌唱を通して旋律の特徴をとらえやすく、副旋律を創作するための旋律の素材として適していると考えた。旋律の特徴を把握しやすい曲だからこそ、主旋律に新たな副旋律を加えることによるテクスチュアの変化と曲想との関わりを知覚・感受しやすい。「翼をください」に複数のはたらきをする副旋律を聴取教材として用い、異なる旋律の重なりによって生まれるテクスチュアの特徴や変化を知覚・感受する。このような活動を通して、副旋律創作のための具体的な視点をもたせ、明確な思いや意図をもちながら旋律を創意工夫する力を育てたい。

6. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴を理解している。 技 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に合った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。	思 テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	態 音の重なり方の特徴を生かした旋律づくりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

7. 指導計画と評価計画（全4時間）

時	◎ねらい　○学習内容　・学習活動	評価規準 【評価方法】			☆Aと判断する生徒の状況例 ■個別な働きかけを要する生徒への支援
		知技	思	態	
◎主旋律を歌唱しながら、響きの重なりによる表現の広がりを感じ、音を重ねることへの関心をもつ。					
1	○「カントリーロード」の主旋律を歌唱し、旋律の特徴や曲想を味わう。 ・題材紹介と本時のねらいを共有する。 ・主旋律を全体で歌唱し、旋律の流れや曲想の変化を聴き取る。 ・楽譜にマーキングをして音のつながり方を記録する。 ○主旋律と合わせて音の重なりを体感し、表現への関心をもつ。 ・基本コード（C・G・Am・F）を1人1台のミニキーボードでおさえる。 ・主旋律（カントリーロード）を弾き歌いする。 ○音の重なりによって生まれる表現の違いに気づき、音を重ねることの楽しさを感じ取る。 ・構成音をもとに、副旋律を創作する。 ・単音や簡単な旋律を即興で重ねる体験を通して、音の重なりに興味や関心をもつ。 ・カトカトーンまたはキーボードで音に出して試しながら副旋律のアイデアを出す。 ○本時を振り返り、今後の見通しをもつ。 ・自己評価カードに本時の振り返りを記入する。 ・次時は主旋律に合わせて歌う副旋律を創作することを伝える。				■音程に不安がある生徒には、階名唱や指番号カードで支援。 ■鍵盤に不慣れな生徒には、色シールで構成音を可視化する。 ☆旋律の特徴やコードの働きを理解し、主旋律を安定して歌唱できる。 ☆旋律と和音の関係に気づき、音の響きに関心を示している。
◎副旋律の。重なりによる響きや曲想の変化を聴き取り、音の重なりの働きに気づく。					

2	○前時の復習をする。 ・コードに耳を傾けながら、主旋律を歌唱する。 ○副旋律のはたらきを聴き取る。 ・「翼をください」の旋律に重なる様々な副旋律を聴取して、音楽の特徴について考える。 ・副旋律による表現の効果を、ワークシートに記録する。 ・ペアで旋律の特徴について意見を共有し、ワークシートに記入する。 ・「翼をください」を通して鑑賞し、作曲者（編曲者）の意図について考える。 ○主旋律との関係を分析する視点をもつ。 ・主旋律との関係性を分類して整理する。 ・ペアで気づいたことを共有する。 ・代表的な副旋律のはたらきを確認する。 ○歌詞や曲想から感じた心情をもとに、表したいイメージを明確に持つ。 ・「自分の『カントリーロード』はどんな場面・気持ちか」言葉や絵で表す。 ○表したいイメージに合うように、副旋律のはたらきを考え、創作する。 ・創作課題と評価の観点を確認する。 ・カトカトーンまたはキーボードで音に出して試しながら副旋律のアイデアを出す。 ・並行・反行・交互などの動きを試しながら、響きの違いを聴き取り、どの働きが自分のイメージに近いかを判断する。 ○主旋律との重なりを意識し、構成を工夫する視点をもつ。 ・ペアで交流し、互いの旋律の働きとイメージを説明しあう。 ・副旋律案を整理する。 ○本時を振り返り、今後の見通しをもつ。 ・自己評価カードに本時の振り返りを記入する。 ・次時では創作した副旋律を歌い、意見を共有しさらに表現の工夫を深めていくことを伝える。	 知 【ワークシート】	■聴取が苦手な生徒には、譜例を視覚化して理解を助ける。 ☆副旋律の働き方の違いを聴き分け、その効果を言語で説明できる。 ☆自分の感じた情景や心情を明確に表現できる。
	◎主旋律との重なり方や動きの工夫を考え、他者との交流を通して、自分の思いや意図をもった旋律を創作する。		知 ☆音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解したことを具体的に記述している。

3 (本時)	○前回までに創作した副旋律の特徴をふり返る。 ・前時の創作活動をふり返り、創作した副旋律を共有する。 ○主旋律との関係を意識しながら、副旋律の重なり方や動きを確かめる。 ・自作の副旋律を主旋律と重ねて聴取し、響きや旋律の動き、音のバランスを確認する。 ○他者の意見を取り入れながら、自分の作品を見直す。 ・ペアまたはグループで創作した副旋律を歌唱しながら共有する。 ・工夫した点や改善の余地について助言し合う。 ○交流を通して得た視点をもとに、副旋律を修正する。 ・他者からの意見を参考にしながら、副旋律を修正する。 ○完成した副旋律に込めた思いや意図をふり返る。 ・本時の活動をふり返り、創作した旋律の特徴や工夫した点、込めた思いを言語化する。 ・次時では創作した副旋律を歌唱し、歌唱表現を工夫していくことを伝える。		 思 【ワークシート】【作品】		■旋律修正に時間がかかる生徒には、主要フレーズの2～4小節に範囲を絞って取り組ませる。 思 ☆テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて深く考え、どのように音楽をつくるかについて明確な思いや意図をもっている。
◎創作した副旋律を主旋律に合わせて歌唱し、音の重なりを通して表現の工夫を考える。					

4	○前時の復習をする。 ・主旋律を歌唱する。 ○創作した副旋律と主旋律を合わせて歌唱する。 ・ペアが歌う主旋律に合わせて、創作した副旋律を歌唱する。 ・音の重なりを意識して歌う。 ・演奏を録音する。 ○音の重なりを通して表現の工夫を考える。 ・録音した音源を聴き、どのように表現を工夫すれば、表したいイメージに近づくか、考える。 ・表したいイメージに合った強弱や奏法（レガート、アクセント等）を考える。 ○表現を工夫して副旋律を歌唱する。 ・考えた表現の工夫を意識し、再度ペアで歌唱をする。 ・演奏を録音する。 ○自己の作品を振り返り、作品を修正する。 ・録音を聴き、自己の作品とイメージを照らし合わせて表現が合っているか考える。 ・必要に応じて副旋律の音程やリズムを修正し、より自分の意図に合う旋律へと磨き上げる。 ・ワークシートに自己評価を記入する。 ・目標を達成できたかどうかや今後の創作活動に生かしたいことを自己評価カードに記入する。	 【技】 【観察】 【作品】		 【態】 【観察】 【自己評価カード】	■音量や音質に課題がある生徒には、少人数で録音練習を行い自信をもたせる。 【技】 ☆創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に合った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、既習の知識や技能を生かしながら具体的に表現を工夫している。 【態】 ☆音の重なり方の特徴を工夫し、表現の変化の面白さや豊かさなどに関心を持ち、自分の考えを積極的に伝えたりしながら創作の活動に意欲的に取り組んでいる。
---	--	--	--	---	---

8. 本時の展開（3時間目）

（1）日 時 令和7年11月29日（土）9：45～10：35

（2）場 所 山梨大学教育学部附属中学校 第1音楽室

（3）本時の目標 「主旋律との重なり方や動きの工夫を考え、他者との交流を通して、自分の思いや意図をもった旋律を創作する。」

（4）展 開

過程	学習のねらいと学習活動	教師の指導・支援	評価・備考
導入 （5分）	○前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 ・前回創作した副旋律を思い出し、	・数名の生徒に前時の作品例を提示し、「重なり方によって印象が変わる」ことを再確認させる。	学習形態 ペア、個人 【態】【観察】

	どのような点を工夫したかをペアで共有する。		
本時のねらい：「主旋律と重ね、響きを確認めながら他者と交流し、自分の作品をよりよく工夫しよう」			
展開 (40分)	○主旋律との関係を意識しながら、副旋律の重なり方や動きを確認める。 ・自作の副旋律を主旋律と重ねて聴取し、響きや旋律の動き、音のバランスを確認する。 ・響きや動き、リズムのバランスを確認し、感じたことをメモする。 ○他者の意見を取り入れながら、自分の作品を見直す。 ・ペアまたはグループで創作した副旋律を歌唱しながら共有する。 ・聴き手は「音の重なりの特徴」「副旋律の働き」「改善のヒント」をワークシートに記録する。 ・演奏後、「どんなイメージを表したかったか」を口頭で説明する。 ・工夫した点や改善の余地について助言し合う。 ○交流を通して得た視点をもとに、副旋律を修正する。 ・他者からの意見を参考にしながら、副旋律を修正する。 ・「どこを変えるとよりイメージに近づくか」を考え、音程やリズムの一部を修正する。 ・キーボードやカトカトーンで音を鳴らして確かめながら、新たなアイデアを試す。	・必要に応じて個別支援を行い、音の重なりや副旋律の役割について、焦点を絞って助言する。 ・「主旋律とぶつかっていない？」「思っていたイメージになっている？」など、自己点検を促す発問を行う。 ・聴取の観点（①音の重なりの特徴 ②副旋律の働き ③表したいイメージとの一致）を板書し、焦点化する。 ・「今の響きはどんな感じ？」「どうしたらその思いがもっと伝わる？」など、具体的な対話を促す。 ・全体共有の場面では、良い工夫や多様な発想を紹介し、創作意欲を高める。 ・「なぜそこを変えたの？」「どんな響きにしたいの？」と問い返し、意図と音の関係を考えさせる。 ・修正後の作品を短く発表させ、変化を比較できるようにする。	学習形態 一斉、ペア 知【ワークシート】 思【ワークシート】 態【観察】 学習形態 個人
まとめ (5分)	○完成した副旋律に込めた思いや意図をふり返る。 ・本時の活動をふり返り、創作した旋律の特徴や工夫した点、込めた思いを言語化する。	・ワークシート記入後、数名に発表させ、学級全体で表現の多様性を共有する。	学習形態 個人 主【自己評価カード】

	・次時では創作した副旋律を歌唱し、歌唱表現を工夫していくことを伝える。		
--	-------------------------------------	--	--

〈引用・参考文献 等〉

- ・中学校学習指導要領 文部科学省 H29 ・中学校学習指導要領解説 音楽編 文部科学省 H29.6
- ・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 音楽） H23 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 音楽編 文部科学省 R2.3 国立教育政策研究所 教育課程研究センター